



我が子の突然の難病を知らされたとき、涙はとめどなく流れてきます。きっとみなさんも経験をされたことでしょう。でも泣きたい時にはおおいに涙を流して泣いた方が体に良いようです。

涙は主に涙腺で作られ、まばたきするたびにでてきて目の表面を潤します。酸素を運び細菌やゴミから瞳を守る。余った分は目頭から鼻へと流れる。

東邦大学医学部で涙を流した時の体の変化を調べたところ、泣くと頭の中のもやもやが消えてすっきりするそうです。この涙によるストレス解消効果はうれし泣きでも悔し涙でも同じ、そして涙をこらえるとかえってストレスをためてしまうようです。

泣けば気分が晴れる。皆さんも気兼ねしないでおおいに泣きましょう。そしてストレスを解消しましょう。でも、泣く姿を見ると周りの人は心配をします。特に子どもの前で泣くことは避けましょう。お一人の時にどうぞ。

< 第136回 ほほえみの会 総会 >

新しい方や堀越医師、岡田医師を含め8人が参加しました。

3歳男の子、急性リンパ性白血病。6月から発熱が続きかかりつけの医師に診て貰ったがよくわからず、血液検査でもわからない。父親が薬剤師で不安に思い、総合病院で診てもらったがそこでも判定不明。そのままこども病院へ移って骨髄検査をして病気が発覚。まさか自分の子供が。母親が面会時は5歳の兄を両親に見てもらっている。ところが兄が食事をしなくなり今は遅くなくても父親と食べるようにしている。

5歳女の子、左肩に悪性腫瘍。最初右肩が痛いと言い、診てもらったところエアコンで冷えた、肩こりと診断。総合病院では首が曲がっている。CTでは異常なし。さらに他の病院へ行って異常がわかりこども病院へ。腫瘍が脊髄に入っていることがわかり緊急手術。非常に珍しい腫瘍で放射線、そして抗がん剤治療に入っている。

中学2年女の子、急性骨髄性白血病。総合病院で本人と親を前にいきなり白血病を告知されて驚いた。こども病院で治療を始め、今月初旬に骨髄移植を行う。兄の骨髄がHLA1座違いだったが移植を行った。前処置から嘔吐や下痢がある。

肝芽腫、再発、再再発、2回の末梢血肝細胞移植を経て元気になった。来年幼稚園へ行くのに病気のことを園に話したほうが良いだろうか。書類などには記入をして幼稚園には知っておいてほしいが、必要以上に心配をさせる必要はないのではないかという意見がありました。

先月、学校の先生に病気のことをどう説明して良いかわからないという話題がありましたが、堀越先生から希望があればいつでも手紙を書いてくださるといってお話がありました。病気の原因は不明であること、うつる病気ではないことなど説明をしてくれるとのことでした。

こども病院の行政法人化が提案されていますが、堀越先生からはこれを機会に、県に伺いを立てることなく独自に、患者本位のサービスを充実した医療機関になるチャンス、また職員がサービス精神を持つように意識改革をするチャンスでもある。良い面を積極的に考えたいというお話しがありました。

10月29日(日)13時から「のぞみの会静岡支部総会」がこども病院3階講堂で開かれます。晩期障害についての講演もあります。ご参加ください。

次回は 11月 12日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_1iked@yaho.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>